



国際ロータリー2620地区
長泉ロータリークラブ

週報



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

発行/会長:西原 重夫 幹事:杉山 弘年
例会/毎週水曜日 12:30~13:30
例会場/財米山記念館ホール
事務局:〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1
TEL・FAX: (055) 988 - 3070 E-mail:n-jimu@nagaizumi.com



<https://www.nagaizumi.com/>

第1707回 例会 2021.10.20 wed

長泉ロータリークラブ 会長あいさつ
会長 西原 重夫 SHIGEO NISHIHARA

皆さんおはようございます。
今日の例会は早朝散歩、駿河平自然公園散策と言う事で朝早くからお集まり頂きました。済んだ空気とちょっと引き締まる気温とで非常に心良い朝を迎えての散歩に成り心ゆく迄楽しめました。散歩途中皆さんと普段の例会では話せない会員の方や又例会とは違った内容の話が出来たり有意義な時間が過ごせました。今後ともこのような場が沢山持てるようにして行きたいと思えます。親睦委員会の皆さん、会員の方が和気あいあいとコミュニケーションが取れる場の提供宜しくお願い致します。公園の中のゴミ拾いもしましたがほとんどゴミは無く、ゴミが無い事で清々しい散歩が出来た事に感謝し、心良い散歩が出来る、その為にゴミを捨てない事の大切さを思う早朝例会でした。「感謝!!」



三枝会員 10月20日
当日 89歳のお誕生日
おめでとうございます!



財団法人 米山記念館外観

出席報告(10月20日 wed)

会員総数	出席計算に 用いた会員数	出席	出席率
25名	22名	17名	77.27%

1707回 10月20日 wed

例会スナップショット 📷

早朝例会

駿河平自然公園ゴミ拾いウォーキング



2011年～2013年に米山奨学生として受け入れられました**バングラデッシュから留学されたシャ・アラム**、モハammadさんの近況報告

はじめに

この度は、ロータリー米山記念奨学会および元奨学生の一人として記事を書くことができ大変感謝しております。私はバングラデッシュ出身のシャーです。2011年4月から2013年3月、2年間ロータリー米山記念奨学生でした。その後、日本大学大学院国際関係研究科国際関係研究専攻博士後期課程を修了し、同大学で教員として職に就きました。

国際社会貢献

私は、日本大学国際関係学部で2010年4月から2011年3月まで教員アシスタント（金谷ゼミナール）、2012年4月から2013年3月まで同学部 ティーチングアシスタント、そして、2013年4月から2021年 現在に至るまで日本大学で講師をしています。専門は、「国際地域総合研究と開発教育」です。

「ベンガル語」は、世界で約3億5000万人もの人々に使われており、ベンガル人にとって誇り高き言語です。この言語を守るために、1952年にダッカ大学の学生を中心に「バジャ・アンドロン」と呼ばれるデモを実施し、1971年には独立戦争を起こすなど、自らの命と引き換えにベンガル語を死守してきました。これを受けて、ユネスコは1999年11月17日に言語尊重の推進を目的として、「国際母語デーInternational Mother Language Day」を成立させ、毎年2月21日(একুশে ফেব্রুয়ারি Ekushe February)が国際母語デーとなっています。

日本国内最大の私立大学である日本大学では、2014年から日本で初めてベンガル語の授業を開始しました(東京外国語大学を除く)。現在、ネイティブである私が、特定言語研究授業を実践的な形式で行っています。毎年多くの学生が学び、国際社会に貢献しています。学生や社会人がこの言語を学ぶことにより、今後の日本にとって、また国際関係及び国際社会において、重要な架け橋となる存在になっていくと思っています。

このような重要な言語および日本大学について、バングラデッシュ現地の新聞(দৈনিক সমকাল Daily Somokal)に取り上げられました(①)。

また、現地の新聞記事は日本大学国際関係学部の公式Facebookにも取り上げられました(②)。これらによって、私の研究分野の幅が広がり、多くの学生や大学の運営に非常に重要な役割を果たすことになっています。



- ①2019年12月
- ②2019年12月
- ③2021年8月

さらに私は、日本大学教員として母国のバングラデッシュ現地の新聞(দৈনিক মানবকণ্ঠ Daily Manabkontho)に、「国際地域における開発教育の重要性と国際社会情勢」について定期的にコラムを書いています(③)。今後ともますます国際社会貢献できると考えています。

留学生へ

皆様が留学先に太王の国とも言われるこの日本を選び、勉強、研究し、立派に活躍あるいは学友活動をされていることは、米山奨学生としてロータリーの活動を一緒に体験することによって、奉仕する心を学んでいるからに他ならないでしょう。

留学生に対して様々な支援をする奨学金は沢山あります。しかし、米山記念奨学金はそれら多くの奨学金制度と違って、単純に金銭的な援助をするだけでなく、一人一人の学生が日本とそれぞれの母国を繋ぐ架け橋となるよう導いてくださるものです。これが、米山記念奨学金制度の特徴であります。

さらに、奨学金支給の期間が終わっても、ロータリーとの出会い、カウンセラーをはじめとするロータリアンとの出会いを大切にす気持ちは続き、その経験は人生の糧となっていきます。そこには、新たな気づきがあり新たな発見があります。皆様が日本の平和、そして世界の平和のために今後も大きな力となることを願っています。

最後に

ロータリー米山記念奨学金によるご支援のおかげで、私は研究活動に全力を注ぐことができます。ご支援いただいたすべての方々に心からお礼を申し上げます。そして、今後もより一層の努力をして、より日本をはじめ国際社会貢献できるように励んでまいります。

日本大学教員
Dr. Mohammad Shah Alam (国際関係 博士)

